



樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL: 0155 (37) 5501
発行日 令和3年12月22日

待ちに待った見学旅行に満足の笑顔



12月2日にチャーター機で出発した見学旅行団。エア・ドウ様のご厚意によりロコン・ジェットでの往復となりました。コロナ禍に翻弄された生徒たちを励ます意味も込めて「よい思い出となれば」とサプライズを用意してくれたそうです。本当にありがたいことです。

広島へ到着すると、空港には「ようこそ広島へ」の垂れ幕。そして広島空港とエア・ドウのキャラクターがお出迎えしてくれました。宮島・厳島神社を見学し、もみじ饅頭をいただきつつ、広島に戻り夕食は広島風お好み焼き。2日目、平和祈念公園を訪れた際に

は、事前学習で原爆のお話をオンラインで伺った箕牧さんが私たちをわざわざ訪ねてくれました。感謝感激です。午後は京都・清水寺を参拝。3日目、USJを満喫しました。最終日はクラス別研修をそれぞれ楽しんで神戸空港から北海道への帰路につきました。

幸い天候にも恵まれ、体調を崩す人もおらず、全員で全日程を終えることができました。保護者の皆様をはじめ、今回の見学旅行に尽力してくださった方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

地域課題の解決に向けて提案

3年選択『自己表現』では、帯広市役所都市政策課の「まちそだて」の一環として、地域課題解決をテーマとした探究活動を行っています。その発表会が10日に今回のテーマに沿った外部の方を多数お招きして行われました。今回のテーマは「稲田地区」「道の駅」「電信通り商店街」の三つ。それぞれの地域創生に関する提案を発表しました。1つめのグループは稲田地区の活性化として麦音の周辺にピクニックスペースを作りパンを中心とした人が集うような街作りを提案。次のグループは帯広地区に道の駅を作るとしたら、川西インターチェンジ付近に帯広の食と自然を発信できる施設を提案。最後のグループは電信通り商店街のパンフレットとSNS発信について提案。パンフレットを実際に作って出席者に配布しました。さらにInstagramも実際のものと自分たちが作成したものとの比較をアンケートによって検証し、そのデータを示しながら改善策を提案しました。それぞれの発表に対し、提案までのプロセスや経緯など活発な質問が出され、苦労しながらも生徒たちは的確に答えていました。今後まとめたものをHP『CLASSプロジェクト』にて紹介する予定です。ぜひご覧ください。



1年次PTA研修会

1年次PTA研修会が14日行われました。1年次のPTA活動として初めて行われたものですが、今回はハッシュコーポレーションの奥野佑成様から「進路実現に向けたご家庭でのサポート」と題し講演をしていただきました。

まず模試成績からは順調な成績の推移であること。特に数学は過去5年間で1番成績がよいとの報告がありました。次に模試成績の見方について説明があり、最後に家庭での声かけ・励ましや生活のリズム作りの重要性を訴えていました。また、新しい入試制度の実施に伴い、「社会とのかかわり」や「探究活動」の重要性も触れていました。ご家庭での引き続きのサポートをよろしくお願いします。

第18回 2-6担任・吹奏楽部顧問 島田 聖二 教諭

言葉は人。外国語を学ぶ意味がそこにある。

◇見学旅行

三条で見学旅行引率は5回目になりますが、こんなに何事もなく皆が楽しめた旅行は初めてでした。ある保護者の方は、旅行から帰った娘さんが旅行中にあったことを本当に楽しそうに話してくれたそうで、行けただけでもありがたかったのにこんなに楽しい旅行がありがとうございましたと、自分の事のように私に話してくださったのが大変嬉しかったです。

振り返ってみるとこの学年はコロナの影響で授業もない、宿泊研修もない、学校祭もないという無い無い尽くしで始まりました。それを私たち大人の側はつかいかわいそうだと思ってしまう傾向にあります。加えて世の中全体が挑戦しにくい雰囲気となり、生徒たちはどうしても臆病になってしまいがちです。ですから私は彼らに「タフに生きよう」とメッセージを送っています。彼らも既に自分たちのことをかわいそうだななんて思ってもいませんし、十分乗り越えていると私は信じています。

◇私の人生を決めた小学2年の出来事

私は人生の中でいつも素晴らしい先生と出会い、多くのことを学ばせていただきました。その中でも私の人生を決めたとも思える出来事が小学2年の時にありました。クラスの中に嘘をついたり、人をいじめたりする子がいました。なかなか改まらないのですが、ある時、担任である細川先生はその子に対して厳しく叱責したすぐその後、泣きながら抱きしめて「そんなことをしてはいけない」と諭したのです。子どもと真正面に向き合い寄り添う姿が私の中に強烈に残っています。

す。後日、教職の道を志した原点だと私は思っています。

◇トランペットとの出会い

私は東藻琴という小さな町に生まれ育ちました。そんな町でしたが、小学校の時に金管バンドがありまして、兄の後に続いて私も始めました。その頃は背が小さくていつも列の先頭でしたので、指導して下さった加藤先生は「聖二、おまえは小さいからトランペットだ」とあてがってくれたのです。私の場合、音楽が好きで楽器を始めたのではなく楽器が先だったことになります。でもそれ以降、高校、大学と吹奏楽にのめり込んでいくのですから出会いというのはわからないものです。

◇外国語を学ぶことは自分を見つめること

言葉は言葉だけで成立するわけではありません。そこに暮らす人々の歴史、文化すべてを含んで言葉は成り立ちます。言うなれば言葉は人です。日本語だけだったら日本語のエリアの中だけの自分ではしかありません。どんなに拙くても別の言語で自分を表現しようとすると、ものの見方から改めていくことになり、言わば別の人間になっていくのだと思うのです。それは外国語というフィルターを通して自分を見るということ、つまり、自分を客観視できるようになるということです。これが英語を学んでよかったと私が思うことなのです。



インタビュー

キラリ

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

来年度の全国高校総合文化祭出場権を獲得

書道部 2-3 伊原 悠花 さん



高文連第55回全道高校書道展で来年度の総文祭の出場権を獲得した2年次伊原悠花さん。今回の書は顔真卿の臨書。昨年の先輩の作品を見て「堂々とした力強さに惹かれて自分も書いてみたいと思った」のだそうです。臨書とはお手本を見て書くことなのですが、そっくり書くのがいいのですかと聞くと「もちろんそれが基本となるのですが、そのまま書き写すようなのがいいかというそうでもないのです。自分なりに解釈し、表現することが大切です」と教えてくれました。総文祭参加作品として3月までに新たな作品を提出するのだそうで、「今度は臨書ではなく創作でチャレンジしてみようと思っています。私はそれほど創作を得意としているわけではない

のですが、自分の幅を広げるいい機会にしたいと思っています」と力強く答えてくれました。

小学4年生から書道教室に通い始めたそうです。「最初はそろばん教室に通っていたのですが、学校で書道を習っている人の字がとてもきれいで、自分もやってみたいと思い、書道教室にも通わせてもらいました。その後そろばんをやめてしまうんですが、6年生までは両方続けていたんですよ」と笑う伊原さん。「でもそれはあくまでお習字。高校で田原先生に指導していただいて、初めて自分の表現としての“書”の世界を知ることができました。先生のアドバイス抜きには現在の私はありえません」ときっぱり。書道の魅力を尋ねると、「難しいなあ」と考えてから「同じ字を書いてもそれぞれ違いが表れます。個性がでてくるのです。ですから他の人の作品を見るといろんな発見があって面白いのです」と答えてくれました。最後に書の見方を教えてもらおうと「作者が工夫したり、頑張ったところはなかなかわからないと思いますが、一目見て迫力を感じたり、この部分が好きと思えたらそれが正しい見方なんだと思います」とのことでした。こんなことを気に留めながら書を見てみるのはいかがですか。書道部の作品は生徒ホールの『三条ギャラリー』にも展示されています。

